

No. 189

令和2年10月23日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



できる範囲で、できるだけのことを。

連日報道されている新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は、首都圏を中心に高止まり傾向にあり、なかなか収束が見えてきません。欧米のように爆発的な感染拡大はないものの、未だ気の許せない状況にあります。

5月下旬に再開された学校現場では、最初はおっかなびっくりの部分や場面はあったにせよ、学校におけるニュー・ノーマル（マスクの着用、手指消毒、3密の回避、ソーシャル・ディスタンスの保持等）が定着しつつあります。9月以降、修学旅行、体育祭、自然体験学習など、例年とは違うスタイルながら、無事実施することができました。新型コロナウイルス感染症のリスクを極力低減させるためには、中止という選択肢も考えられます。全国的に見ると、修学旅行や体育祭を中止とした学校が少なからずあります。本校では全ての行事を中止ではなく方法を工夫して実施してきました。これまでのところ、新型コロナウイルスの感染者を出すこともなく、所期の目的を達成することができているように思います。先生がたのきめ細やかな指導と対応に感謝しています。本当にありがとうございます。30日(金)には青陵祭が控えています。細心の注意を払いつつ、生徒たちが練習の成果を存分に発揮できる場にしたいと思っています。合唱指導はもちろんですが、新型コロナウイルス対策とその対応についても、気を緩めることなくよろしくお願いします。



昨夜のNHKニュースウォッチ9で「あたりまえを大切に」をテーマに取り上げ、兵庫県南あわじ市立神代小学校の子どもたちの取り組みを紹介していました。

神代小学校では、例年5月に行われていた運動会が臨時休校によって中止となってしまいました。教師たちは「コロナ禍にあって仕方がない」と諦めていましたが、諦めなかったのは子どもたちです。6年生の子どもたちが立ち上がりました。運動会の開催を強く望んでいた代表の子ども二人が職員室を訪れ、運動会の代わりとなる「くましろ祭」開催を要望したのです。リーダー格の子どもだけでなく、6年生の子どもたち全員が、開催するための方法や工夫を熱っぽく議論する様子が映し出されました。「密を防ぐためにはどうしたらよいか」「消毒はどのタイミングでするのか」「接触を避けるために手袋をはめよう」などなど、次々とアイデアを出し合います。担任は、ときに側面から見守り、ときに後方から後押しするようなスタンスでした。子どもたちの熱意が実り、「くましろ祭」は成功裏のうちに終了することができました。

6年担任の先生は「やらない言い訳を探すのではなく、やれることをみんなで話し合っつつっていくことの大切さに気づかされた」とコメントしていました。

コロナ禍は、先行き不透明でまだまだ続きそうですが、「できる範囲で、できるだけのことを」していくことの大切さを、子どもたちの姿から学びました。

